

# 初任者研修

研修所で行う研修  
(第5回)

# リフレクション通信

兵庫県立教育研修所

第5回は、第6回の研修とのつながりを意識して、中学校では各教科授業づくり、小学校は社会科、道徳科授業づくりの講義・演習を実施しました。社会科の講義・演習では、使用している教科書会社が同じ受講者で班を構成し、資料をもとに授業づくりについて考えました。中学校の各教科の講義・演習では、各領域に焦点をあてて協議を深めたり、互いの考えを比較したりする活動を実施しました。

## 小・中学校共通

### 【児童生徒や保護者からの信頼確保に向けて①】

#### ○研修に向けて

- ・児童や保護者と関わる際には、相手が伝えたいことは何なのかをよく考えて行動するようにしています。誰と関わるにしても信頼がなければ、話してもらえないこともあるので、自分の担任している児童や保護者との関わり方について、もう一度振り返る時間にしたいです。
- ・他学級や他学年との差異がないように対応することに難しさを感じています。「他のクラスは」や「昨年度は」と保護者から思われぬように職員で揃えることの重要性は理解していますが、子どもが変われば対応も変わるし、担任が変われば学級経営の違いがあっても当然であるとも理解しています。先生一人一人の良さを生かしながら、学校全体の信頼にもつながれば良いなと感じています。

#### ○研修の振り返り

- ・具体的な事例を基に考えましたが、自分のクラスで実際にあったこともありました。その時の対応や教えていただいた対応を思い出しながら、それらの大切さを再確認することができました。また、今回の講義テーマでもあった、児童生徒や保護者からの信頼確保の手段として、みなさんがどのようなことを日頃から実践されているのかも気になりました。クラスの児童への対応でまだまだ悩む事もたくさんありますが、子どもたちに向き合いながら、しっかり考えていきたいなと思いました。
- ・何事も伝えることがとても大切だと感じました。問題行動が起こったときに、理想像を語るのではなく、なぜそうなったのかという子どもにしかわからない背景を知ろうと寄り添う気持ちを持つことが大切だと思いました。問題行動への対応は、迅速かつ丁寧に職員間の共通理解を図った上で行っていくべきだと改めて実感できました。保護者が学校からの連絡を受けたとき、悪いイメージを持つ方が多いかもしれませんが、子どもの良いところをたくさん見付けて、それらも伝えていける教員になりたいです。様々な話を聞くにあたって、どんな時も一旦受け入れてあげる心の余裕を持ってほしいです。日ごろから信頼関係を築いていけるよう、真摯に取り組んでいき、

曖昧な返事をせず、わからないことは一旦持ち帰って相談するなど、組織としての対応を丁寧に行い、信頼確保に努めていきたいです。

## 小学校

### 【社会科授業づくり】

#### ○研修に向けて

- ・前回の研修で見た動画のような授業をしたいと思い、子ども同士での話し合いの時間を多く取ってみましたが、3年生ということもあってか上手くいきませんでした。3年生の社会では横浜市での学習をすることが多く、勤務する市に住む子どもたちには興味が湧きにくいと感じていたため、どのように授業をするとよいのかということや、このままでいいのかなどを悩んでいます。
- ・教科書の他に副教材を使用しています。しかし教科書を用いて教えるだけでなく、その知識や情報が、自分たちの身近な世界に生きるということを副教材で確かめるといった流れの授業を展開したいと考えていますが、なかなか上手くいきません。教科書で教える上で、社会科として重要なポイントをしっかりと学びたいです。

#### ○研修の振り返り

- ・社会科の教科書で資料から何を読み取らせ、どのようにねらいに迫るかをみんなで出し合い共有しました。日本が輸入に頼る背景をグラフなどから読み取り、どのように繋げられるのかを大人が考えるのも難しかったです。子どもならどんな意見を出し、根拠を見つけ考えられるのかを出し合い、「ここではこんな聞き方をすればいいのではないか。」「こんな聞き方がそのねらいは引き出せそう。」など1人では辿り着けないところをグループで考えることができよかったです。社会の授業をどのように進めるのかを考えることは、今日自分がやってみて楽しくできました。毎回毎回、このように教材研究することは難しいかもしれませんが、しっかり準備してどんな資料で何をどこまで読み取らせるのか、また、根拠を資料から探す子どもを4月から育てていければいいなと感じました。
- ・資料を見るときに、事前にどこに注目させたいのかを見ておくことが重要であることがわかりました。社会の教材研究は何をすればいいのかがよくわからなかったところもありましたが、今日の演習を通して何を読み取らせたいのか、どこを見させたいのかを具体的に考えておくことが重要であるとわかりました。これまでは、当日の内容を進めていく中で発問を考えていましたが、事前から具体的に考えておくようにしたいと思います。

### 【道徳科授業づくり】

#### ○研修に向けて

- ・授業の価値項目に合わせて子どもたちが主体的に授業に参加できるように活動を設定したり、対話的な活動に関しても、対話の仕方や人数など適宜、内容に合わせて設定したりしてきました。価値項目によっては子どもたちが主体的に感じられず、うわべだけの授業になってしまったと感じることがあります。そこで、子どもたちが1時間の授業の中でどのようなことを考え、他者と交流することで新たな考え方に触れたことで子どもたちはどう考えるのか、子どもたちの思考を明確にしていきたいです。まとめの流れや振り返りなど授業をどのように締めくくっていけば、今後の子どもたちの思考にも繋がっていくのかについて学びたいです。

- 道徳の授業に関しては、まだ苦手意識を持ちながら日々授業をしています。授業では、教材に出てくる登場人物の気持ちを考える活動が多く、国語に近いような授業になっていると感じています。学習する教材のどの部分を中心に、どのような発問をするのかを練る必要があると感じています。今回の研修では、子どもたちの振り返りをどのように評価すればよいのかを学びたいと考えています。

### ○研修の振り返り

- 今まで、ここについてはどう思いますか？など問いかけで返してしまっていることもありましたが、そうではなく、その子が書いていることを肯定し、励ましてあげることが一番重要であるという事を学びました。私の学級にも、あまり振り返りを書くことができない児童もいますが、そのような児童にはもっと意識して声かけをしたり、書けたことを朱書きで認めてあげたりする必要があると感じました。もし、どうしても書くのが難しい場合は、書かせることにこだわらず、口頭で聞くということも視野に入れながら、対応していこうと思います。
- 道徳の評価について学ぶことができました。道徳な評価は個人内の成長を見るものであるので、一人一人見ていきたいと感じました。子どもの振り返りに対しての返しとして、紙に残るものと、声かけの2種類があり、紙で受け取る文章は、気持ちが伝わりにくいことから、子どもがもらってほっこりするような言葉かけを出来るだけしていく必要があることが分かりました。道徳に対して向き合う姿勢を認めることで、道徳を好きになり、自分事として考えていき、深い学びにつながっていくのではないかと思います。これから子どもたちへの声かけの仕方、伝え方に気を付けたいと思いました。

## 中学校

### (国語科)

#### ○研修に向けて

- なんとなく大意を理解して、質問に対する答えとなる部分を読み取ることはできるが、解答として整えることができない、という生徒が多くいるように感じています。また、必要ない要素を取り入れて意味の通りづらい解答を作ることも多く見られます。日々の授業でどのような指導をしていけばいいのか、具体的に知ることができればと思います。

#### ○研修の振り返り

- Jamboard を用いて、グループで教材研究をしたのですが、する前とした後で大きく考えたことや感想が異なっていました。また主発問を考える際も、ブレインストーミングのような形で意見を出していくことで、ある程度の方向性が定まりました。やはりグループで考えることで、一人では思いつかないような発想に至ることができるということを改めて実感しました。また、「数える・選ぶ・全体を取る」という手法は、ぜひ取り入れたいと思いました。テキストを大切に、指導するためには、何度も教科書を読ませる必要があると思います。ただ読ませるだけでは生徒も飽きてしまうし、教員も面白くないと思います。様々な方法を用いて、テキストによることで、現在必要とされている正確に読む力が養われていくのではないかと思います。

## 【社会科】

### ○研修に向けて

- ・歴史的分野では、地理的分野の資料の読み取りにもつながりますが、生徒に予想させることが大切です。生徒に仮説を立てさせ、歴史的資料を使って考え、答えに近づいていくプロセスについて学びたいです。その過程でどのような発問を投げかけるのか、どのような補助発問でサポートするのかを、具体的に単元を取り上げて考えていきたいです。

### ○研修の振り返り

- ・授業づくり⑦に引き続いて歴史分野で考えました。生徒に身に付けさせたいことに向かって、授業のねらいを設定し、いつ、どこで、どんな資料を提示するかということが大事だと感じました。また、既習事項と関連付けて考えさせることも歴史を学ぶ上で大切だと思いました。最後には模擬授業を行いました。生徒が事象をつなげたり、深めたりすることのできる適切な問いかけが必要だと感じました。

## 【数学科】

### ○研修に向けて

- ・授業において、スクールタクトの活用やモニタに映しての ICT 機器活用は行っていますが、その他、便利なソフトウェアも多数あると思うので、知りたいです。また、知識を付けた上でどのように授業に使用すれば有効かを考えながら今回の研修を受けたいです。さらに、他の先生の実践も聞き、授業の幅を広げたいと思います。

### ○研修の振り返り

- ・帰納的・演繹的や統合的・発展的に考えるということがどんなことなのか例を見ながら理解することができました。また、GeoGebra を使って様々な範囲で視覚的に分かりやすい操作があることを知りました。図形や関数で特に活用できそうだと思います。自分自身も教材研究をして必要に応じて使っていけるようにしたいと感じました。

## 【理科】

### ○研修に向けて

- ・科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するため、どのような授業づくりをしていくべきか、今回の研修を通して明確にしていきたいです。教員となって半年が経ち、自分なりの授業の形はできてきましたが、より良い授業にするために他の先生方の意見を取り入れていきたいです。

### ○研修の振り返り

- ・グループで考えた授業構成で、模擬授業を行いました。模擬授業を行った後に、さらによりよい授業になるために話し合いました。模擬授業で使用した黒板を見ながら、表にしてまとめた方がわかりやすい部分や、イラストを描いてその中に短い説明を入れた方がよい部分など色々な工夫を考えました。教材の内容をどのように伝えたらよいかを一人ではなく、グループで色々な視点で考える事で、より子どもたちが主体的に学ぶ機会を作ることができると思いました。

## 【音楽科】

### ○研修に向けて

- ・音楽の見方・考え方を働かせながら鑑賞させるために必要な ICT の活用方法や、鑑賞時の着目点、考え方など学びたいです。苦手意識がある生徒にも分かる授業にしたいですが、どのようにアプローチすれば良いか悩んでいます。

### ○研修の振り返り

- ・掲示物の活用方法を教えていただき、大変参考になりました。キーワードを使って組み合わせる方法は、苦手意識のある生徒にも取り組みやすくなったと感じました。個人ワークや発表してほしい生徒への事前の声かけは、発表への後押しになると感じました。また、先生に認めてもらえたと感じることができ、大人である自分が嬉しく感じるということは、子どもたちはもっと嬉しいだろうと思いました。子どもたちの気持ちを掴めるよう努力していきたいです。

## 【美術科】

### ○研修に向けて

- ・美術に対して苦手意識が強い生徒に、どう発問していけば授業・制作に取り組み、自分自身の表現ができるようになるのかがわかりません。「好きなもの」など興味がありそうな題材の提示をし、個別に話をするとイメージのアイデアは出してくれるのですが、それを描くとなると「描けない」意識が強くなり制作が進みません。こちらで「こんなイメージ？」と描いてしまうとそのイメージになってしまい、生徒自身の制作につなげることが難しいです。

### ○研修の振り返り

- ・生徒のことをよく知り、何を表現しようとしたか汲み取っていけるよう考えていかなければいけないと感じました。評価では、技能面に目が向きがちでしたが、思考・判断・表現にもしっかりと目を向けて考えていかなければならないと改めて学びました。何が思考・判断・表現に当たるのか、生徒が何を伝えようとしているのかを普段の授業から見つめ、難しい生徒にはどういった手立てが有効かを考えることができました。ICT の利用や生徒同士のコミュニケーションによる気付き、自分の表現したいことが相手にも正しく伝わっているか確認することで自身と周囲との差について知る機会を作るとはとても有効だと感じました。今後の授業ではそういった取組も含めながら考えていきたいと思えます。

## 【保健体育科】

### ○研修に向けて

- ・ダンス領域では、自分一人で行うこともありますが仲間と協力して作り上げたり、自分を表現したりする機会が多くあります。そういった経験を通して、生涯運動に親しむ能力を身に付けてほしいと思えます。また、ダンス領域においてタブレット端末の有効な活用方法を学んでいきたいです。

### ○研修の振り返り

- ・ダンスの授業を通して、同じ動きでもリズムを変えたり、隊形を変えたりすることで子どもたちの考えを生かせることができると感じました。また、指導する教員自身が極端に動き、大げさに伝えることで、授業の中で子どもたちの主体性を育てることができると感じました。目を輝かせて、子どもたちが楽しく、充実感を得る授業を作っていきたいです。ICT も有効活用していきたいです。

## 【技術・家庭科(技術分野)】

### ○研修に向けて

- ・生物育成の授業では、作物の栽培での技能指導の場面で、ICT機器を使って提示しながら行っています。実際に生物を栽培育成させる活動で、毎回試行錯誤してなんとか授業を行っています。安定して授業を行っていくための授業案があれば、ぜひ参考に研修したいと思います。

### ○研修の振り返り

- ・学校の環境や地域の特性を生かしている学校があると聞いて、地域と連携して学習できれば、地元を知り大切にしたいと思える活動につながると思いました。教科等指導員の方の話の中に、生物を育成するためのテーマを生徒の身近な場面を想定して設定することで、生徒が主体的に考えるきっかけになると教えていただいたので、今後の授業の中に取り入れたいと思いました。

## 【技術・家庭科(家庭分野)】

### ○研修に向けて

- ・現在、文化祭に向けて3学年全てで製作活動を行っています。特に3年生はぬいぐるみ製作ということもあり、それぞれに個性が出ていていい作品ができています。ただ時間がかかり迫ってきているので、それぞれの個性も出しつつ、時間内に完成できるように授業展開や実習の方法を工夫していきたいです。みなさんが実習されるとき、どのように取り組まれているか聞けたらと思っています。

### ○研修の振り返り

- ・製作活動中の進捗の把握など、悩んでいたことがあったので今回お話を聞くことができたので良かったです。家庭科においては、目に見えて分かりやすい評価方法(進んだところまでのチェックが一目でわかるような工夫)が、意欲にも繋がり効果的だと思いました。道具の使い方や最後の片付けがあらゆる生徒もいるので、安全指導や班を生かした当番制など、様々な工夫をしていきたいです。

## 【外国語科】

### ○研修に向けて

- ・概要を抑えるためには、トピックを理解する必要があるため、短い英文で捉える練習が必要だと感じています。教科書のリーディング教材は概要をとらえるタスクがついているため上手に使いたいです。また、話す活動を毎回の授業で行っていますが、より効果的なものが何か、ねらいをどこに定めるのかを考えた上での活動について学べたらと思います。

### ○研修の振り返り

- ・スモールトークに関して、会話を続けていくために大切なことを考えさせるために、日本語で簡単な内容で話し分析することは、英語の会話にも通じると思いました。リアクションをすること、質問をすること、自分を表現する楽しさを学ばせ、文にすることにこだわらず、会話を広げていくことの大切さを知りました。授業の初めにスモールトークを導入し、教科書に関連した内容に入っていくのも良い方法だと思いました。最近、自校では、新出文法の間接疑問文を用いて相手に丁寧に質問することを目標にして授業の終わりにスピーキングを行うと、生徒は間接疑問文で聞いて、返して、プラスαの情報を頑張って伝えていました。スピーキングは日々の練習で慣れていくものだと思います。